



令和7・8年度「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」

京都市立開晴小中学校

歯科保健目標「歯と口の健康を守るための行動ができる児童生徒の育成」

本校は、京都市東山区にあり、平成23年に開校し、今年度で16年目を迎える義務教育学校です。清水寺をはじめとする世界文化遺産や東山連峰と鴨川に囲まれた多彩な景観を有し、子どもたちは文化・自然に恵まれた地域で生活しています。歯と口の健康づくりを通して、健康や安全に関する様々な課題に関心を持ち、課題解決のために行動できる児童生徒の育成を目指した取組をすすめています。

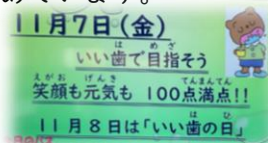
学級活動

養護教諭と栄養教諭が連携し、歯と口の健康に関する指導と、食に関する指導を一体的に進めました。児童生徒が自らの生活習慣を見直し、健康課題解決につなげるとともに、日常的に健康を意識して行動できる力の育成を目指しています。(1年生「正しいかみ方」の授業の様子)



掲示を活用した啓発活動

児童生徒に「歯と口の健康」に興味関心をもってもらいたいと思い、掲示物を作成し、保健室前や階段の掲示板に掲示しました。日常生活の中で気をつけてほしいことや、挑戦してみしてほしいことなどを掲示することで健康の大切さを自然に学べる環境づくりを進めています。



学校歯科医との連携

今年度より、7年生～9年生対象として歯科健診前に「歯科保健調査」を実施しました。生徒が自身で口腔状況を確認する機会をつくることや実態把握をすることをねらいとしています。学校歯科医への質問もあり、学校歯科医に協力いただき、個別に手紙で返答しました。



外部講師による指導

1年生を対象に「歯みがき巡回指導」として、学校歯科医、歯科衛生士より歯みがき指導を実施していただきました。

4年生には、歯の健康づくり講座として外部講師より「噛む」ことの大切さについて講演していただきました。



歯・口の健康づくり推進事業の取組を通して、少しの変化ではありますが、児童生徒の行動変容が見られる場面がありました。例えば、長期休業明けの生活リズム点検を行う中で、これまで朝に歯みがきをしていなかった生徒が、朝の歯みがきをするようになったケースがありました。こうした一つひとつの変化は、目立たないかもしれませんが、児童生徒が考え、行動した経験は、将来の健康づくりの土台となる大切な一歩だと考えています。今後も小さな変化を大切にしながら、取組を続けていきたいと思っています。